人口減少に関する各種会議等における主な意見に対する総合戦略への反映状況一覧表（10月16日現在）

区分	No.	項　目	意見	理由	検討結果（村の考え方）	反映状況	反映内容		
							原稿ページ	反映前	反映後
議会報告	1	アクションプラン（案）	戦略事業8の原木しいたけ植菌支援事業の重要業績評価指標（KPI）にしいたけ生産量を設定していますが、生産量を拡大するためには、生産者及び生産規模の拡大などが必要となります。今後、生産者の高齢化に伴う生産規模の縮小や廃業などにより、生産量は減少していくものと予想されますので、これまでの支援事業の他、生産体制を見直し、再構築するための事業の創設を提案します。	生産者の高齢化、後継者不足など一次産業の衰退が大きな課題となっています。生産者の労働環境の改善と所得向上に対する早急な対応が必要です。 しいたけ生産体制を山から里に向け、遊休農地などを利用する施設栽培に移行することにより、労働力の軽減が図られ、また、高品質な椎茸の安定供給が可能となり、経営の持続安定が期待できます。さらに、他事業の閑散期に兼業する複合経営を推進することにより、一次産業全体の所得向上が図られるものと考えますので、継続事業に加え、生産体制強化並びに新規参入者支援等の創設について、総合戦略又はアクションプランに盛り込んでいただきたい。	アクションプラン（案）へ反映を予定				
推進会議	2	総合戦略（案）	高齢者自身によるコミュニティをつくり、自立をめざし協力し合う、また、高齢者のボランティアグループをつくり社会に役立つ存在となる。	例えば、皆で昼食をつくり食事を楽しむ。特に一人ぐらしになると食事がいいかげんになったり、人との会話がなくなり、介護される側になりやすい。一人では自立できないことも協力し合えば可能性がでる。 身体が動くうちは働きたい、人の役に立ちたいという人も多いと思う。（シルバー人材センターに登録するほどではない。）例えば、老人ホームで食事のテーブルの用意や後かたづけ、会話の相手になる、洗濯物をたたむ、簡単な清掃などやれることはあると思う。	総合戦略（案）へ反映を予定				
推進会議	3	総合戦略（案）	「ネットワーク環境の整備と利用促進」を産業振興と連動させるべき。実際は地の利のハンディキャップを克服できる分野としてIT産業の誘致を促進するため。全村をカバーするネットワークを活用しくろさき荘を改修、IT企業の誘致を進めたらどうか。くろさき荘をIT事業×農漁業・水産加工等、観光振興施策の拠点とすることを提案したい。	全村におけるネットワーク環境の整備が施策として実施されており、基礎的条件は整っている。一方、産業振興のために六次産業化・ブランド化は不可欠であるが、付加価値をつけて地の利のハンディキャップを克服することが可能な方法としてIT産業を導入することは大きな効果が期待できる。さらに、くろさき荘別館の有効利用が求められていることを考えれば、ここにIT産業に従事する企業を集中化させて、新しい産業振興の拠点とすることが妥当であると考える。	総合戦略（案）へ反映を予定				